

発注の作成

Almaでの受入に関するトレーニングセッションへようこそ

このセッションでは、Almaで発注を作成する3つの方法の概要を説明します

発注明細を手動で入力する方法

Embedded Order Data (EOD)レコードデータまたはファイルをインポートする方法

AlmaのAPIを使用したベンダーからリアルタイムで発注する方法です

どんな種類のリソースを発注したい場合でも

発注を手動で作成するには、書誌レコードが必要です

実行する方法はいくつかあります

アイテムがすでに所属機関に存在し、別のコピーを購入する場合は

Almaの機関ゾーンで書誌レコードを検索し、[発注]をクリックします。

一方、新しい電子リソースを発注する場合は

コレクションや個々のポートフォリオなど

コミュニティゾーンで書誌レコードを見つけることができます場合があります

似たような方法で

あなたがコンソーシアムのメンバーであり、そのコンソーシアムがAlmaにネットワークゾーンを持っている場合

そこで書誌レコードを検索できます

外部ソースで書誌レコードを検索するオプションもあります

WorldCat、Library of Congress、British Libraryなどです

また、ベンダーに直接連絡してリソースを発注していて

その発注をAlmaに追加して、受領と請求を行う場合

ベンダーから書誌レコードが送信され、それをAlmaにインポートすることができます

書誌レコードが機関ゾーンに追加されたら

[発注]をクリックして、発注書の作成プロセスを開始します

残りの手動発注プロセスは

物理的な資料なのか、電子的な資料なのか

買い切りなのか購読なのかによって異なります

これらの各プロセスの詳細は、今後数回の

受入トレーニングセッションで説明します

発注を作成する2番目の方法は

Embedded Order Data (EOD) ファイルをインポートします

EODファイルは、Alma内ではなく

すでにリソースを直接購入したベンダーから送信されます

EODファイルには、書誌データ、目録データ、および購入情報が含まれています

このタイプのインポートでは、EODファイルの発注情報に基づいて

書誌レコードや目録レコード、発注明細が作成されます

EODインポートの詳細は

「リソースのバッチインポート」のトレーニングセッションで紹介されています

Almaで発注明細を作成する3番目の方法は、リアルタイム受入を使用することです

この場合、ベンダーから直接リソースを再度購入します

この場合、一部のベンダーでは

そのコンピュータシステムがAlmaのAPIを使って

直接Almaに情報を送信することができるように事前に設定することができます

その後、Almaは定期的に[新規発注API]ジョブを自動的に実行し

新規発注情報がベンダーからAlmaに送信され

Almaは発注明細と発注書を作成します

リアルタイム発注は、特定のベンダーでのみ機能します

OASISまたはGOBIシステムを使用しているベンダーです

また、機関が行う必要のある設定があり

それにはEx Librisのスタッフの支援が必要となる場合があります

例えば、新規発注APIの統合プロフィールを作成する必要があるとします

その時、APIキーをベンダーに送信します

ただし、一度セットアップしてしまえば

スタッフはベンダーのシステムを操作するだけで

Almaが自動的にオーダーを作成してくれるのでリソースの受入が非常に楽になります

リアルタイム受入の詳細については

[ナレッジセンター]のマニュアルを参照するか

[Ex Libris 開発者ネットワーク]にご相談ください

以上がAlmaで発注を作成する方法の解説でした